

# Yamakado News Letter



ブナ純林で胸高直径調査 5/4



ユキバツバキ開花調査 4/22



水生昆虫調査 4/29 by Saji



雨天室内作業 土砂受箱作成 5/13

## 山に新緑が広がる頃、調査・保全活動も本格的に始動

4月20日頃から上層部ではブナの明るい黄緑色の新緑が広がり始め、5月の第1週頃からは湿原沿いでコナラも白い新芽を一齐に広げました。この時期は木によって葉の色が違い、山全体が多彩な色で染まって鮮やかです。また時を同じくして、キビタキやオオルリ、クロツグミ、ツツドリなど野鳥の囀りも賑やかになってきました。そんな中、会員の調査や保全活動も本格的に活動を開始しました。

ただ、気になるのはウグイスの鳴き声が全く聞こえないことです。ウグイスは笹の多い林下や藪を好む鳥ですが、山門水源の森周辺では笹藪が激減しており、その影響が出ていると考えられます。



ブナとコナラの最も鮮やかな季節 5/5

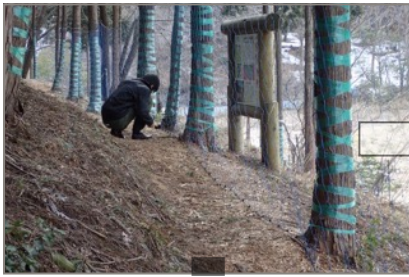


保全活動 北部沢砂上げ 5/20



ハチトラップ設置 5/20 by Murata





ネット設置 中央看板付近 3/23



一葉に挿されたラベル 北部中央間 5/2



金網設置 南部湿原沿い 5/9



金網設置 5/22の様子



金網設置 5/22の様子



金網を追加補充 5/22の様子

## ササユリの防獣作業におわれた5月

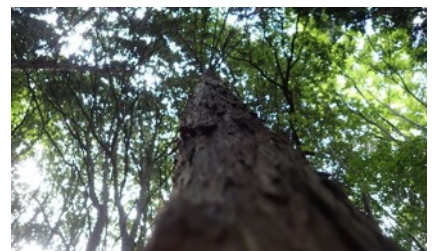
湿原観察道ではササユリの一葉が目に見えて増えてきました。その一葉にラベルを挿す作業を4月20日頃から続けてきました。ササユリは2年目、3年目の小さな一葉がまず先に芽を出し、続いて複葉の株、そして花芽の付いた太い株が5月に入った頃から発芽します。花芽をつけた株はシカに狙われます。里山と人の関わりを象徴するササユリ、その次世代の種を残すために金網をかけて保全します。しかし、その足元には先に芽を出した一葉が散在しています。それらを踏み荒らさないよう目印にラベルを挿します。また、金網掛けは1日で終わるものではありません。毎日見回っても翌日には必ず見逃した株が見つかります。それらもシカにやられない様、見づかり次第金網を掛けなければなりません。と言っても人的労力の限界もあります。花芽の付いた太い株を見つけながら作業を翌日にまわした結果、食われてしまった株も幾つかありました。こんな感じで気が抜けないササユリの防獣作業も5月半ばを過ぎると落ち着いてきました。しかし、今後は花が咲いて種が実るまで見守りを継続しないといけません。まだまだ気が抜けません。

## ヒノキ林間伐と玉切り→林床植生の再生と保全体験用の材料作り

6月に保全体験学習で岐阜市立青山中学1年生(140名)が来訪予定です。彼らには玉切りした間伐材の運搬体験をしてもらいます。この森のヒノキは間伐しても作業車で運び出す道がありません。そこで人力で可能な資源利用の作業として、以下のことをしています。短く玉切りしたヒノキを担いで楽舎まで運搬し、粉砕機でチップにした後、土のう袋に詰めて再度山道を担いで運搬し、木の根の養生を目的に歩道に撒く作業です。その体験用の材料作りに間伐をしました。その間伐は本来の趣旨とは違います。しかしながら、長らく放置されたヒノキ林は林床が暗く下草がありません。また針広混合林になっていて、広葉樹に接するヒノキは光を奪われ立ち枯れしています。この間伐では林床に光が当たり、生物多様性や土壌保全のためにも下草が再生することも期待しています。



針広混交林

枝打管理がされず二股になったヒノキ  
この辺りは下草も全くない

アカガシに光を遮られ立枯れたヒノキ